

菊花薫る

中津市長 奥塚 正典

菊と言えば、さくらと並んで日本を代表する花です。市花でもあり、多くの家庭でも栽培され重用されています。そういえばファンが多い菊花賞レースと言うのもありますね。

毎年、菊の愛好家「菊花会」の人たちが菊花展を開催、中津の秋を彩る風物詩です。今年で46年の歴史を重ねます。その継続する力には感心するばかりです。実際に菊を育てている名人から^{うんちく}蒞蓄のあるお話をうかがいました。

菊は、土の水はけが悪くても良すぎてもダメ、新しい根を育てるため養分を保てる豊かな土でないと大輪は咲かない。また、成長にあわせ、日差しと日陰、風通しなどのバランスのとれた環境が必要。そして増土、施肥、消毒は時期を外さず適量行う。そのためには菊の様子をしっかりと見守る。さらにわき芽摘みは、摘み残しがないよういろいろな方向から伸びしろを見つけてあげる。さらに菊の個性を尊重し品種により育て方を変え、優しさと厳しさの両方を含んだ愛情で育てるなどなど。『菊作りは子育てと同じよ』と含蓄の深い一言。なるほど「菊」を「子ども」に置き換えるとその意味がよくわかります。

もう一つ大事な点は仲間たち。菊作りは最初失敗ばかりで、仲間が丁寧に教え助けてくれたおかげで一つずつ覚えていった。「先達はあらまほしきことなり」、素晴らしい人との出会いに感謝とのことです。中津の菊づくり文化を支える人材が助け合って活躍しているのです。



大貞八幡菊花展（薦神社）

名人は、台風が来ると、車庫から車を外に出し、代わりに菊鉢を一つひとつ時間をかけて中に運び入れ風雨から守るそうです。そんな姿に脱帽、厳しくも優しい子育ての真髄を見た気がします。愛情一本で育て上げた「子どもたち」の晴れ姿、今年も11月1日から薦神社に並びます。楽しみ！